



並木中等story

令和4年7月6日号

受け止めてくれる人、場所

人は自分が行ったことを認めてくれる人がいると、“がんばろう”という気持ちになれます。幼い頃に受け止めてくれる人はお母さん、お父さんを中心とした家族です。幼稚園や保育園に通う子どもが親に向かって走っていき、飛ぶ込むようにぶつかっていく。お母さん、お父さんは子をしっかりと抱きしめる。これが受け止めるです。受け止めてもらえた子はとても嬉しそうな表情をします。成長するにしたがい、受け止めてもらいたい人が広がります。家族だけでなく、親戚、友達、近所の人、知人などの他人が入ってきます。そのような人に自分が頑張ったことを評価してもらえると嬉しいですね。これ



これは大人になっても、お年寄りになっても同じです。「頑張ったね。」の言葉をもらうために、スポーツに励むお年寄りもいます。みんな、受け止めてもらいたいのです。

実は“受け止める”のは人だけではないのです。帰る家、自分の部屋、学校のクラス、部活などはどうでしょうか。皆さんが、ほっとして、落ち着くと共に「また、がんばろう。」という気持ちになれる所は、皆さんを受け止めてくれる場所です。受け止めてくれる人や、場所を大切にしたいですね。

《祝！世界水泳 銀メダル》

本校の第7回の卒業生である佐藤友花さんが、6月20日にハンガリーのブダペストで開催された世界水泳選手権アーティスティックスイミングの混合デュエット・テクニカルルーティン決勝で日本勢初の銀メダルを獲得しました。

おめでとうございます。